# Factors related to satisfaction level in daily life for older people


| メタデータ | 言語: jpn<br>出版者:<br>公開日: 2017-10-02<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者:<br>メールアドレス:<br>所属: |
| --- | --- |
| URL | http://hdl.handle.net/2297/34898 |

# 在宅高齢者における生活満足度に関する要因

出村（デムラ）　慎一（シンイチ）*　野田（ノダ）　政弘（マサヒロ）2*　南（ミナミ）　雅樹（マサキ）3*
長澤（ナガサワ）　吉則（ヨシノリ）4*　多田（タダ）　信彦（ノブヒコ）5*　松沢甚三郎（マツザワジンサブロウ）6*

**目的**　本研究の目的は，在宅高齢者を対象に，日常生活における生活満足度と生活状況との関係を明らかにすることであった。

**方法**　1,320人の在宅高齢者を対象に，理論的妥当性を考慮して選択した7生活満足度要因，および13生活状況要因に関する質問紙調査を実施した。

**成績**　在宅高齢者の生活満足度の特徴を検討した結果，身体的健康に関する満足度において顕著な性および年代差が認められた。対人関係に関する満足度は，男女とも親友の数，男性においてはボランティア活動と関連が認められた。生活状況要因が満足度に及ぼす影響は，身体的健康に関する満足度において最も高く，また，親友の数は，いかなる内容の生活満足度に対しても影響が大きいと考えられた。

**結論**　在宅高齢者の満足度の背景には多様な生活状況が存在し，生活満足度の内容毎に影響を及ぼす生活状況要因が異なると推測された。

**Key words**：高齢者，生活満足度，生活状況

## I　緒　　言

幸福な老いの程度は，Quality of Life （QOL）の主観的側面において「主観的幸福感（subjective well-being）」と総称される[1]。主観的幸福感は，情緒的側面の幸福感（happiness）と認知的側面の満足度（satisfaction）の2つの側面をあわせたものである[2]。「老化に対する個人的あるいは社会的適応」[3]と位置づけられる生活満足度は，健康の定義と同様，広範な領域に渡るQOLを捉える重要な要素の一つと言える[4~6]。よって，高いQOLとは，身体的にも，心理的にも，社会的にも，実在的に満足のできる状態[7]と考えられる。

高齢者の生活満足度に影響を及ぼす要因は，概ね心理的要因，行動的要因，社会活動的要因，物理的要因の4つに区別され[8]，これまで多くの研究において生活満足度との関係が検討されている。山下ら[9]は，隠岐郡知夫村に存在する73人の高齢者を対象に，人生の満足度や精神的な健康に影響を及ぼす要因として環境を挙げ，特に社会的活動性の影響が大きいことを指摘している。古谷野[10]は，主観的幸福感と年齢，性，職業の有無，あるいは経済状況など，さまざまな要因との関係を検討し，健康度自己評価や社会環境指標が生活満足度を高めると報告している。つまり，在宅高齢者の生活満足度は種々の要因をその背後に有し，かつこれらの要因は相互に関連して生活満足感に影響をおよぼしていると考えられる。

しかし，日常生活のあらゆる場面に対して認知される生活満足度は，その場面や内容が考慮されなければならず，多面的な満足度の内容を踏まえて関連要因を検討した報告は少ない。すなわち，満足度に関連する要因は多岐に渡り，それぞれの要因に応じて，満足度もさまざまな内容が想定される。よって，満足度の内容を考慮し，詳細に関連要因を検討することが望まれる。また，主観的QOL（モラール）とそれに関連する要因を検討した研究[11]では性差が報告されており，満足度をはじめ，主観的QOLを規定する諸要因の検討に

* 金沢大学教育学部
2* 仁愛大学
3* 米子工業高等専門学校
4* 秋田県立大学
5* 福井県立大学
6* 福井医科大学
連絡先：〒920-1192 福井県鯖江市下司町
福井工業高等専門学校　小林秀紹

は，性差を考慮する必要があると考えられる。

一方，わが国では，欧米で開発されたLSIに代表される生活満足度尺度が利用されているが，異なる文化的背景を有するそれらの尺度をそのまま流用することは問題がある[12]。また，生活満足度を評価する尺度は，これまで幾つか提示されている[1]が，価値観や生活環境など，多様な生活満足度を十分捉えているとは言い難い[1]。

以上のことから，次の3つの点が検討課題として導出される。1)生活満足度調査項目の再検討，2)生活満足度と関連する要因との総合的検討，3)性差を考慮した生活満足度と日常生活状況との関連。

以上，本研究では，理論的妥当性を踏まえ，新たに生活満足度調査項目を選出し，種々の生活満足度と多岐に渡る日常生活状況との関係について性差および年代差を考慮し，包括的に検討することを目的とした。

## Ⅱ　研究方法

### 1.　調査対象

本研究の調査対象は，日常生活に支障のない60歳以上の在宅高齢者であった。調査は有為抽出により，北海道，秋田県，石川県，福井県，愛知県，および岐阜県の各道県を選定した。各道県における担当調査員が地域生涯学習サークル（陶芸等の文化活動，トリム体操等の身体活動，等）を中心に依頼，紹介を経て，留置および各戸への訪問面接による調査を実施した。調査に関する説明を行い，本人の意思で調査を否定できること，これによって何らかの不利益も受けないことを提示した。調査票は1,450部配布し，1,408人の調査票を回収した。回収した調査票を詳細に検討し，欠損値などの不備を除いた結果，1,320人（男性665人，女性655人，表1）の有効回答（有効回答比率：94%）を得た。なお，有効回答と無効回答（欠損値を含む回答）における生活満足度11項目（後述）の平均値に，両回答間で有意差は認められなかった。

### 2.　生活満足度調査項目

まず，理論的妥当性と検討を踏まえて，生活満足度を評価する質問項目を選択した。すなわち，佐藤ら[13]や張ら[4]の報告を参考に，生活満足度が「身体機能および健康」，「日頃の暮し方」，「家族および親戚との関係」，「対人関係」，「周辺環境」，および「生活設計」から構成されると仮定した。次に，満足度の各構成概念に代表すると考えられる複数の調査項目を先行研究[4,13]で利用された調査項目を参考に選出した。さらに，著者ら複数の研究者が項目内容を吟味し，14項目を選択した。この14項目について，得られた資料から内的整合性に基づく妥当性を検討した（I-T相関）。主成分分析により第1主成分の負荷量を算出し，負荷量の低い1項目（r＝0.27）を妥当性が低いと判断し除外した。信頼性は再テスト法によって検討した。1回目の調査を実施した85人を対象に，概ね2週間を経た後に2回目を実施した。テスト―再テスト間のピアソンの相関係数は，2項目を除き，0.67～0.89の有意な値であった。最終的に14項目から妥当性および信頼性の低い3項目を削除

表1　標本の性別年代別度数および平均年齢

| | 年代 | 60 | 65 | 70 | 75 | 80 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男子 | 度数(人) | 120 | 209 | 208 | 82 | 46 | 665 |
| | 年齢(歳) | 62.3 | 67.0 | 71.8 | 76.8 | 83.3 | |
| 女子 | 度数(人) | 139 | 198 | 170 | 89 | 59 | 655 |
| | 年齢(歳) | 62.1 | 66.9 | 71.7 | 76.8 | 83.9 | |
| 全体 | 度数(人) | 259 | 407 | 378 | 171 | 105 | 1,320 |
| | 年齢(歳) | 62.2 | 67.0 | 71.8 | 76.8 | 83.6 | |

表2　満足度要因と調査項目

| 要因番号 | 要因 | | 項目 |
|---|---|---|---|
| F1 | 家族 | 1 | 子どもや孫との関係に満足している |
| | | 2 | 配偶者との関係に満足している |
| F2 | 日頃の過ごし方 | 3 | 日頃の過ごし方（仕事，趣味，ボランティア活動など）に満足している |
| | | 4 | 日頃の食生活に満足している |
| F3 | 身体機能 | 5 | 家の中での生活活動に身体的な面で支障はなく，満足している |
| | | 6 | 外出や買い物の際に身体的な面で不都合はなく，満足している |
| F4 | 対人関係 | 7 | 近所付き合いに満足している |
| | | 8 | 友人関係に満足している |
| F5 | 環境 | 9 | 周辺の交通機関に満足している |
| | | 10 | 医療機関の利用に不便はなく満足している |
| F6 | 生活設計 | 11 | 経済状態に満足している |

し，11項目を再選択した（表2）。再選択された11項目におけるCronbachのα係数は0.89の高い値であった。調査項目の評定尺度は，各項目内容に対する満足度について「非常に満足」（5点）から「不満」（1点）までの5段階評価とした。

### 3. 生活状況調査項目

生活満足度に関係する生活状況要因は，多くの側面が提示されている[6]。濱島[6]は，主観的QOLに影響を与える要因として，多くの先行研究をレビューし，次の7要因を提示している。年齢，婚姻，職業，経済状況，身体的健康，活動性と社会参加，および老人ホームである。このうち，生活満足度の質問項目として選出した経済状態と，在宅高齢者と直接関係がない老人ホームを除く，5つの要因を生活満足度に関係すると仮定した。具体的な調査項目として，在宅高齢者を対象とした先行研究[14,15]を参考に，一般的な生活習慣調査項目として利用されている以下の13項目を選択した。なお，括弧内は反応カテゴリの内容であり，数値は付与した点数を示している。

1）家族構成「一人（1）」，「配偶者のみ（2）」，「配偶者と子供（3）」，「子供と一緒（4）」

2）職業「会社勤務（1）」，「パート作業（2）」，「自営業（3）」，「農作業（4）」，「家事手伝い（5）」，「行っていない（6）」

3）体力自己評価「劣る（1）」，「やや劣る（2）」，「普通（3）」，「やや優れる（4）」，「優れる（5）」

4）健康度自己評価度「健康ではない（1）」，「あまり健康ではない（2）」，「まあまあ健康（3）」，「非常に健康（4）」

5）通院状況「ある（1）」，「ない（2）」

6）睡眠状況「とてもよく眠れる（1）」，「よく眠れる（2）」，「あまりよく眠れない（3）」，「よく眠れない（4）」

7）食事の規則性「規則正しい（1）」，「だいたい規則正しい（2）」，「あまり規則正しくない（3）」，「不規則が多い（4）」

8）喫煙状況「たくさん吸う（1）」，「やや多め（2）」，「普通（3）」，「少なめ（4）」，「吸わない（5）」

9）飲酒状況「ほとんど毎日（1）」，「ときどき（2）」，「ほとんど飲まない（3）」，「飲まない（4）」

10）外出状況「ほとんど毎日（1）」，「週に3～4日（2）」，「週に1～2日（3）」，「ほとんど外出しない（4）」

11）運動実施状況「ほとんど毎日（1）」，「週に2～3日（2）」，「月に1～2回（3）」，「年に数回（4）」，「行っていない（5）」

12）ボランティア参加状況「ほとんど毎日（1）」，「週に2～3日（2）」，「月に1～2回（3）」，「年に数回（4）」，「参加していない（5）」

13）親友の数「たくさんいる（1）」，「何人かはいる（2）」，「一人はいる（3）」，「特にいない（4）」

### 4. 解析方法

生活満足度の特徴を把握するために，項目得点の平均値および標準偏差を算出し，性と年代を要因とする2要因分散分析を行った。生活満足度と生活状況との関係を明らかにするために，両者間の相関比およびピアソンの積率相関係数を算出した。また，各生活状況反応カテゴリ間の第1主成分得点（T得点化）の1要因分散分析を行った。さらに，生活満足度の第1主成分得点および6つの満足度要因得点（「家族」，「日頃の過ごし方」，「身体的健康」，「対人関係」，「環境」および「生活設計」と各要因を代表する項目の得点和）を従属変数，各生活状況を説明変数とする数量化理論Ⅰ類を行った。一連の解析は男女別に実施した。

## Ⅲ 研究結果

### 1. 高齢者の生活満足度

表3は，生活満足度の平均値，標準偏差，および性と年代を要因とする2要因分散分析の結果を示している。各項目の平均値は，全体および男女において概ね反応カテゴリ4「やや満足」前後（3.7～4.3）であった。分散分析の結果，No. 2「配偶者との関係に～」，No. 5「家の中での日常生活活動に身体的な面で支障はなく～」，No. 6「外出や買い物の際に身体的な面で不都合はなく～」の3項目に有意な性差が認められ，男性の満足度は女性に比べて，No. 2は65歳代以外の各年代において，No. 5は80歳代において，No. 6は75歳代および80歳代において高かった。

有意な年代差は，No. 5, No. 6, No. 8「友人関係に～」，およびNo. 11「経済状態に～」の4項目に認められた。No. 6は男性において60歳～75歳代が80歳代より，女性において60歳～70歳代が75歳および80歳代より満足度が高かった。No. 5およびNo. 8はいずれも女性において80歳代より他の年代の満足度が高かった。No. 5とNo. 6は

表3　生活満足度の全体，性別の基礎統計値，2要因分散分析の結果

| | 全体 | | 男子 | | 女子 | | F値 | | | 多重比較 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | 年齢階段 | | | 性 | |
| | Mean | SD | Mean | SD | Mean | SD | 性 | 年齢階段 | 交互作用 | 男子 | 女子 | 60 | 65 | 70 | 75 | 80 |
| 1 子どもや孫との関係に満足している | 4.1 | 0.9 | 4.1 | 0.9 | 4.1 | 0.9 | 0.04 | 0.94 | 1.40 | | | | | | | |
| 2 配偶者との関係に満足している | 4.0 | 1.0 | 4.2 | 0.9 | 3.9 | 1.1 | 36.45* | 1.27 | 4.45* | | | M>F | | M>F | M>F | M>F |
| 3 日頃の過ごし方（仕事，趣味，ボランティア活動など）に満足している | 4.0 | 0.9 | 4.0 | 0.8 | 3.9 | 0.9 | 0.62 | 3.60 | 0.74 | | | | | | | |
| 4 日頃の食生活に満足している | 4.3 | 0.7 | 4.3 | 0.7 | 4.2 | 0.8 | 3.47 | 2.67 | 1.85 | | | | | | | |
| 5 家の中での日常生活活動に身体的な面で支障はなく，満足している | 4.1 | 0.9 | 4.2 | 0.8 | 4.0 | 1.0 | 10.01* | 7.14* | 0.08 | | 60,65>70>80 | | | | | M>F |
| 6 外出や買い物の際に身体的な面で不都合はなく，満足している | 4.1 | 1.0 | 4.2 | 0.9 | 4.1 | 1.1 | 12.73* | 20.76* | 1.26 | 60,65,70,75>80 | 60,65>75>70>80 | | | | M>F | M>F |
| 7 近所付き合いに満足している | 4.1 | 0.8 | 4.1 | 0.8 | 4.1 | 0.8 | 0.39 | 2.35 | 0.54 | | | | | | | |
| 8 友人関係に満足している | 4.3 | 0.8 | 4.2 | 0.7 | 4.3 | 0.8 | 1.06 | 5.29* | 1.19 | | 60,65,70,75>80 | | | | | |
| 9 周辺の交通機関に満足している | 3.7 | 1.1 | 3.7 | 1.1 | 3.7 | 1.1 | 0.05 | 0.48 | 0.57 | | | | | | | |
| 10 医療機関の利用に不便はなく満足している | 3.9 | 1.0 | 3.9 | 0.9 | 3.8 | 1.0 | 0.13 | 1.02 | 0.88 | | | | | | | |
| 11 経済状態に満足している | 3.7 | 1.0 | 3.8 | 1.1 | 4.0 | 1.0 | 1.19 | 4.28* | 0.87 | | 75>60 | | | | | |

* $P<0.05$

いずれも性と年代の両要因に有意差が認められた。

## 2. 生活満足度と生活状況との関連

表4は，生活満足度と生活状況要因との相関比および相関係数を男女別に示している。すべての生活満足度は，いずれかの生活状況要因との間に男女とも有意な相関比および相関係数が認められた。No. 3「日頃の過ごし方に～」は，男女とも運動の実施状況やボランティア活動と有意な関係（－0.23～－0.28）が認められ，No. 4「日頃の食生活に～」は食事の規則性と有意な関係（－0.28～－0.30）が認められた。No. 3およびNo. 4は，親友の数にも有意な関係（－0.24）が認められた。No. 5「家の中での日常生活活動に身体的な面で支障はなく～」とNo. 6「外出や買い物の際に身体的な面で不都合はなく～」は，男女とも体力や健康度の自己評価と相対的に高い関係（0.26～0.43）が認められ，運動実施状況やボランティア活動とも有意な関係が認められた。No. 7「近所付き合いに～」とNo. 8「友人関係に～」は，親友の数と相対的に高い関係（－0.30～－0.47）が認められ，男性ではボランティア活動とも有意な関係（－0.21～－0.30）が認められた。

表5は，第1主成分得点の各生活状況別のカテゴリ平均得点（T得点），標準偏差，その分散分析の結果，および第1主成分得点を従属変数，13項目の生活状況を独立変数とする数量化Ⅰ類の結果を示している。家族，職業，通院状況，喫煙および飲酒は，男女のいずれにおいてもカテゴリ平均得点間に有意差が認められなかった。外出は男女で異なり，女性にのみ有意差が認められた。その他の生活状況要因はすべて男女ともカテゴリ平均得点間に有意差が認められ，体力や健康は自己評価が高いほど，睡眠はよく眠れるほど，食事は規則正しいほど，運動やボランティア活動は頻度が高いほど，親友は多いほど，満足度得点が高い傾向が認められた。

表6は13項目の生活状況要因を独立変数，第1主成分得点および6つの生活満足度得点を従属変数とする数量化Ⅰ類の結果を男女別に示している。第1主成分得点の重相関係数は，男性において，0.49，女性において0.60であった。第1主成分得点よりも高い重相関係数を示した生活満足度は，男女ともF3身体的健康（男性R＝0.53，女性R＝0.69）であった。一方，男性ではF1家族

表4 生活満足度と生活要因との関係

| | | | 相関比 | | | | | 相関係数 | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 家族構成 | 仕事 | 通院 | 体力自己評価 | 健康度自己評価 | 睡眠状態 | 食事規則性 | 喫煙状態 | 飲酒状態 | 外出状況 | 運動実施状況 | ボランティア | 親友の数 | 年齢 |
| 男性 | 1 | 子どもや孫との関係に満足している | 0.06 | 0.13 | 0.01 | 0.03 | 0.03 | −0.15** | −0.18** | 0.03 | 0.02 | 0.04 | −0.04 | −0.07 | −0.09 | 0.04 |
| | 2 | 配偶者との関係に満足している | 0.15 | 0.07 | 0.01 | 0.02 | 0.05 | −0.13** | −0.16** | 0.05 | 0.03 | 0.01 | −0.14** | −0.13** | −0.12** | 0.05 |
| | 3 | 日頃の過ごし方（仕事，趣味，ボランティア活動など）に満足している | 0.06 | 0.19 | 0.00 | 0.17** | 0.16** | −0.13** | −0.11** | −0.03 | −0.10 | −0.12** | −0.23** | −0.28** | −0.22** | −0.08 |
| | 4 | 日頃の食生活に満足している | 0.14 | 0.06 | 0.07 | 0.10 | 0.10 | −0.15** | −0.28** | 0.03 | −0.06 | −0.02 | −0.13** | −0.13** | −0.24** | −0.02 |
| | 5 | 家の中での生活活動に身体的な面で支障はなく，満足している | 0.15 | 0.17 | 0.10 | 0.26** | 0.31** | −0.18** | −0.12** | −0.06 | −0.10 | −0.09 | −0.15** | −0.20** | −0.18** | −0.16 |
| | 6 | 外出や買い物の際に身体的な面で不都合はなく，満足している | 0.11 | 0.19 | 0.08 | 0.28** | 0.32** | −0.12** | −0.04 | −0.06 | −0.12** | −0.14** | −0.16** | −0.21** | −0.22** | −0.21 |
| | 7 | 近所付き合いに満足している | 0.07 | 0.07 | 0.03 | 0.08 | 0.08 | −0.14** | −0.15** | −0.08 | 0.02 | −0.01 | −0.08 | −0.21** | −0.32** | 0.01 |
| | 8 | 友人関係に満足している | 0.08 | 0.11 | 0.05 | 0.13** | 0.10 | −0.13** | −0.06 | −0.07 | 0.01 | −0.03 | −0.15** | −0.30** | −0.47** | 0.00 |
| | 9 | 周辺の交通機関に満足している | 0.07 | 0.09 | 0.01 | 0.05 | 0.11** | −0.07 | −0.01 | 0.03 | 0.00 | −0.02 | −0.07 | −0.01 | −0.10 | −0.02 |
| | 10 | 医療機関の利用に不便はなく満足している | 0.07 | 0.07 | 0.04 | 0.06 | 0.06 | −0.03 | −0.03 | 0.00 | −0.02 | −0.01 | −0.14** | −0.09 | −0.19** | 0.02 |
| | 11 | 経済状態に満足している | 0.07 | 0.09 | 0.02 | 0.16** | 0.15** | −0.20** | −0.13** | 0.05 | 0.06 | −0.01 | −0.12** | −0.07 | −0.15** | 0.15 |
| 女性 | 1 | 子どもや孫との関係に満足している | 0.14 | 0.12 | 0.09 | 0.14** | 0.19** | −0.22** | −0.15** | −0.02 | −0.04 | −0.09 | −0.06 | −0.09 | −0.24** | −0.07 |
| | 2 | 配偶者との関係に満足している | 0.24** | 0.11 | 0.04 | 0.14** | 0.25** | −0.13** | −0.14** | 0.03 | −0.04 | −0.12 | −0.17** | −0.15** | −0.23** | −0.12 |
| | 3 | 日頃の過ごし方（仕事，趣味，ボランティア活動など）に満足している | 0.08 | 0.11 | 0.01 | 0.23** | 0.26** | −0.16** | −0.20** | 0.10 | −0.12** | −0.13** | −0.24** | −0.27** | −0.27** | −0.06 |
| | 4 | 日頃の食生活に満足している | 0.19 | 0.09 | 0.00 | 0.20** | 0.21** | −0.24** | −0.30** | 0.09 | −0.11 | −0.10 | −0.13** | −0.17** | −0.22** | −0.02 |
| | 5 | 家の中での生活活動に身体的な面で支障はなく，満足している | 0.11 | 0.10 | 0.15 | 0.35** | 0.39** | −0.19** | −0.13** | 0.08 | −0.07 | −0.17** | −0.28** | −0.20** | −0.20** | −0.18 |
| | 6 | 外出や買い物の際に身体的な面で不都合はなく，満足している | 0.11 | 0.17 | 0.15 | 0.38** | 0.43** | −0.11** | −0.07 | 0.04 | −0.09 | −0.28** | −0.30** | −0.26** | −0.27** | −0.29 |
| | 7 | 近所付き合いに満足している | 0.09 | 0.17 | 0.05 | 0.14** | 0.24** | −0.20** | −0.13** | 0.09 | −0.02 | −0.11** | −0.08 | −0.11 | −0.30** | −0.05 |
| | 8 | 友人関係に満足している | 0.09 | 0.13 | 0.04 | 0.20** | 0.27** | −0.19** | −0.13** | 0.07 | −0.12** | −0.16** | −0.21** | −0.14** | −0.44** | −0.14 |
| | 9 | 周辺の交通機関に満足している | 0.05 | 0.10 | 0.06 | 0.09 | 0.15** | −0.12** | −0.03 | 0.02 | 0.00 | −0.11** | −0.17** | −0.06 | −0.12** | −0.01 |
| | 10 | 医療機関の利用に不便はなく満足している | 0.04 | 0.09 | 0.05 | 0.14** | 0.14** | −0.10 | −0.14** | 0.04 | −0.07 | −0.09 | −0.11** | −0.06 | −0.16** | 0.06 |
| | 11 | 経済状態に満足している | 0.12 | 0.08 | 0.03 | 0.16** | 0.17** | −0.20** | −0.15** | 0.04 | −0.01 | −0.05 | −0.08 | −0.11** | −0.16** | 0.10 |

** $P>0.01$

表5　各生活要因における第1主成分得点の分散分析および数量化理論Ⅰ類の結果

| | | 度数 | 男性 | | | | | 女性 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | Mean | SD | F-値 | CS | 偏相関係数 | Mean | SD | F-値 | CS | 偏相関係数 |
| 家族構成 | 一人 | 77 | 46.5 | 12.99 | 0.82 | −0.27 | 0.12 | 46.5 | 12.27 | 1.94 | −0.73 | 0.24 |
| | 配偶者のみ | 379 | 50.6 | 9.55 | | 0.05 | | 50.9 | 9.92 | | 0.14 | |
| | 配偶者と子供 | 439 | 50.5 | 9.34 | | 0.06 | | 49.9 | 9.67 | | 0.14 | |
| | 子供と一緒 | 212 | 49.3 | 10.89 | | −0.21 | | 49.6 | 10.49 | | −0.05 | |
| | その他 | 174 | 50.4 | 9.11 | | −0.15 | | 49.7 | 11.92 | | −0.12 | |
| 職業 | 会社勤務 | 100 | 50.9 | 9.16 | 1.12 | 0.00 | 0.15 | 51.4 | 8.36 | 1.09 | 0.01 | 0.08 |
| | パート作業 | 115 | 49.9 | 11.37 | | −0.06 | | 49.5 | 11.30 | | 0.18 | |
| | 自営業 | 115 | 51.7 | 10.21 | | 0.18 | | 50.7 | 9.80 | | 0.06 | |
| | 農作業 | 294 | 50.6 | 9.41 | | 0.16 | | 51.0 | 9.54 | | 0.02 | |
| | 家事手伝い | 135 | 52.4 | 4.33 | | 0.13 | | 48.7 | 9.96 | | −0.11 | |
| | 行っていない | 433 | 49.1 | 9.65 | | −0.15 | | 48.8 | 11.59 | | −0.01 | |
| | その他 | 99 | 51.4 | 7.88 | | −0.02 | | 51.3 | 7.53 | | 0.03 | |
| 通院 | 有 | 722 | 50.0 | 9.64 | 0.33 | −0.01 | 0.02 | 48.9 | 10.78 | 2.94 | −0.01 | 0.01 |
| | 無 | 375 | 50.5 | 9.87 | | 0.02 | | 50.6 | 9.56 | | 0.02 | |
| 体力自己評価 | 劣る | 71 | 45.0 | 8.78 | 6.44** | −0.13 | 0.07 | 38.6 | 16.22 | 19.53** | −0.57 | 0.17 |
| | やや劣る | 180 | 47.9 | 8.85 | | 0.10 | | 47.1 | 10.73 | | 0.11 | |
| | 普通 | 804 | 50.1 | 9.65 | | −0.03 | | 51.0 | 8.72 | | 0.04 | |
| | やや優れる | 190 | 52.9 | 8.87 | | 0.01 | | 52.1 | 9.49 | | −0.03 | |
| | 優れる | 56 | 52.9 | 10.82 | | 0.16 | | 54.2 | 10.59 | | 0.00 | |
| 健康度自己評価 | 健康ではない | 69 | 46.9 | 10.97 | 10.48** | −0.08 | 0.09 | 37.8 | 15.96 | 30.85** | −0.50 | 0.25 |
| | あまり健康ではない | 199 | 47.0 | 10.35 | | −0.13 | | 45.0 | 11.15 | | −0.41 | |
| | まあまあ健康 | 892 | 50.7 | 9.10 | | 0.00 | | 51.1 | 9.02 | | 0.12 | |
| | 非常に健康 | 89 | 55.1 | 9.23 | | 0.24 | | 56.3 | 8.91 | | 0.35 | |
| 睡眠 | とてもよく眠れる | 160 | 53.8 | 9.08 | 9.45** | 0.15 | 0.12 | 52.6 | 8.92 | 15.05** | 0.15 | 0.09 |
| | よく眠れる | 771 | 50.9 | 9.24 | | 0.04 | | 50.7 | 9.69 | | −0.01 | |
| | あまりよく眠れない | 299 | 53.8 | 9.96 | | −0.18 | | 47.1 | 10.49 | | −0.02 | |
| | よく眠れない | 31 | 50.9 | 11.75 | | −0.19 | | 38.1 | 20.07 | | −0.41 | |
| 食事 | 規則正しい | 481 | 52.5 | 9.47 | 8.01** | 0.17 | 0.18 | 51.7 | 9.59 | 16.08** | 0.11 | 0.15 |
| | だいたい規則正しい | 682 | 49.5 | 8.98 | | −0.09 | | 48.8 | 10.07 | | −0.10 | |
| | あまり規則正しくない | 78 | 47.9 | 11.41 | | −0.04 | | 48.2 | 14.45 | | 0.30 | |
| | 不規則が多い | 15 | 43.1 | 14.81 | | −0.84 | | 23.0 | 11.08 | | −0.74 | |
| 喫煙 | たくさん吸う | 34 | 47.2 | 9.45 | 2.47 | −0.14 | 0.05 | 33.1 | 19.47 | 1.39 | −0.58 | 0.06 |
| | やや多め | 57 | 52.6 | 8.89 | | 0.09 | | 47.6 | 8.51 | | 0.11 | |
| | 普通 | 111 | 52.2 | 9.63 | | −0.01 | | 46.5 | 14.27 | | 0.05 | |
| | 少なめ | 44 | 49.8 | 9.11 | | −0.09 | | 45.8 | 15.12 | | −0.24 | |
| | 吸わない | 850 | 50.3 | 9.55 | | 0.01 | | 49.0 | 10.59 | | 0.01 | |
| 飲酒 | ほとんど毎日 | 264 | 50.5 | 9.62 | 0.43 | −0.03 | 0.04 | 52.3 | 12.61 | 1.90 | −0.03 | 0.06 |
| | ときどき | 224 | 50.6 | 8.79 | | −0.03 | | 51.4 | 8.95 | | −0.16 | |
| | ほとんど飲まない | 182 | 50.3 | 8.59 | | 0.07 | | 49.7 | 10.06 | | 0.04 | |
| | 飲まない | 531 | 49.5 | 10.84 | | 0.02 | | 48.9 | 11.12 | | 0.02 | |
| 外出 | ほとんど毎日 | 461 | 50.6 | 9.69 | 1.39 | −0.05 | 0.09 | 51.2 | 9.83 | 17.24** | −0.11 | 0.12 |
| | 週に3〜4日 | 337 | 51.3 | 9.31 | | 0.10 | | 50.2 | 9.35 | | 0.04 | |
| | 週に1〜2日 | 334 | 49.6 | 9.09 | | −0.05 | | 50.4 | 9.33 | | 0.16 | |
| | ほとんど外出しない | 109 | 48.8 | 11.28 | | 0.15 | | 40.2 | 15.88 | | −0.04 | |
| 運動実施 | ほとんど毎日 | 149 | 53.2 | 9.00 | 6.78** | 0.19 | 0.19 | 54.8 | 8.46 | 10.95** | 0.46 | 0.21 |
| | 週に2〜3日 | 316 | 51.8 | 9.32 | | 0.15 | | 52.4 | 8.76 | | 0.11 | |
| | 月に1〜2回 | 133 | 52.1 | 8.55 | | 0.10 | | 49.5 | 8.69 | | −0.29 | |
| | 年に数回 | 65 | 50.6 | 9.59 | | −0.22 | | 52.2 | 9.41 | | 0.29 | |
| | 行っていない | 506 | 48.1 | 10.17 | | −0.18 | | 47.2 | 11.24 | | −0.08 | |
| ボランティア | ほとんど毎日 | 12 | 56.2 | 9.01 | 11.36** | 0.60 | 0.13 | 52.9 | 7.59 | 9.25** | −0.27 | 0.06 |
| | 週に2〜3日 | 60 | 53.1 | 7.74 | | 0.06 | | 54.1 | 8.04 | | 0.21 | |
| | 月に1〜2日 | 247 | 53.2 | 8.32 | | 0.12 | | 51.8 | 8.08 | | −0.02 | |
| | 年に数回 | 407 | 51.0 | 9.00 | | −0.04 | | 51.6 | 8.89 | | 0.01 | |
| | 参加していない | 490 | 47.1 | 10.67 | | −0.08 | | 46.9 | 12.08 | | −0.02 | |
| 親友 | たくさんいる | 375 | 55.1 | 8.95 | 28.22** | 0.27 | 0.23 | 54.2 | 7.94 | 30.40** | 0.49 | 0.37 |
| | 何人かいる | 722 | 49.7 | 8.72 | | −0.04 | | 48.4 | 9.92 | | −0.16 | |
| | 一人はいる | 42 | 47.1 | 9.01 | | 0.01 | | 46.2 | 12.00 | | −0.15 | |
| | 特にいない | 126 | 44.6 | 10.87 | | −0.44 | | 40.3 | 15.02 | | −0.75 | |

CS：カテゴリスコア

** $P<0.01$

に関する満足度の重相関係数が最も低く（R＝0.39），女性ではF5環境に関する満足度の重相関係数が最も低かった（R＝0.44）。

第1主成分得点に最も高い偏相関係数を示した生活状況要因は，男女ともに親友の数（男性R＝0.23，女性R＝0.36）で，通院，喫煙および飲酒の3つの生活状況要因は，男女とも有意な関連（偏相関係数）が認められなかった。

男性において，F1家族に関する満足度とF2日頃の暮らし方は食事の規則性と有意な偏相関係数が認められ（0.21～0.26），F3身体的健康は喫煙（0.20）および運動実施状況（0.20）と，F4対人関係およびF6生活設計は親友の数と関連が認められた（0.21～0.38）。

女性において，F1家族に関する満足度は家族構成および親友の数との関連が認められた（0.26～0.43）。F2日頃の暮らし方は通院を除くすべての生活状況と有意な関連が認められた。F3身体的健康は体力自己評価および健康度自己評価（0.32～0.33）と，F4対人関係と健康度自己評価および親友の数との関連が認められた（0.26～0.47）。

**表6**　生活満足度を従属変数，各生活要因を説明変数とする数量化Ⅰ類の結果

| | 生活状況 | 第1主成分得点 | F1 家族 | F2 日頃の暮らし方 | F3 身体的検査 | F4 対人関係 | F5 環境 | F6 生活設計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男性 | 家族構成 | 0.12** | 0.10 | 0.16** | 0.12** | 0.08 | 0.15** | 0.10** |
| | 職業 | 0.15** | 0.19** | 0.12** | 0.15** | 0.13** | 0.18** | 0.21** |
| | 通院 | 0.02 | 0.03 | 0.01 | 0.09 | 0.01 | 0.01 | 0.05 |
| | 体力自己評価 | 0.07 | 0.10** | 0.10 | 0.16** | 0.10 | 0.09 | 0.12** |
| | 健康度自己評価 | 0.09 | 0.06 | 0.07 | 0.13** | 0.08 | 0.04 | 0.19** |
| | 睡眠 | 0.12** | 0.11** | 0.11** | 0.09 | 0.03 | 0.10 | 0.13** |
| | 食事 | 0.18** | 0.21** | 0.23** | 0.12** | 0.10 | 0.14** | 0.04 |
| | 喫煙 | 0.05 | 0.04 | 0.08 | 0.20** | 0.12** | 0.09 | 0.05 |
| | 飲酒 | 0.04 | 0.05 | 0.04 | 0.04 | 0.09 | 0.07 | 0.14** |
| | 外出 | 0.09 | 0.12** | 0.05 | 0.08 | 0.07 | 0.17** | 0.10** |
| | 運動実施 | 0.19** | 0.15** | 0.16** | 0.20** | 0.10 | 0.17** | 0.16** |
| | ボランティア | 0.13** | 0.08 | 0.15** | 0.10** | 0.12** | 0.12** | 0.16** |
| | 親友 | 0.23** | 0.14** | 0.14** | 0.08 | 0.38** | 0.17** | 0.21** |
| | 重相関係数 | 0.49 | 0.39 | 0.48 | 0.53 | 0.52 | 0.40 | 0.46 |
| | 決定係数 | 0.24 | 0.15 | 0.23 | 0.28 | 0.27 | 0.16 | 0.21 |
| 女性 | 家族構成 | 0.24** | 0.43** | 0.25** | 0.20** | 0.16** | 0.17** | 0.19** |
| | 職業 | 0.08 | 0.15** | 0.17** | 0.14** | 0.16** | 0.09 | 0.07 |
| | 通院 | 0.01 | 0.03 | 0.02 | 0.08 | 0.03 | 0.01 | 0.10 |
| | 体力自己評価 | 0.17** | 0.15** | 0.24** | 0.32** | 0.17** | 0.09 | 0.19** |
| | 健康度自己評価 | 0.25** | 0.21** | 0.11** | 0.33** | 0.26** | 0.15** | 0.08 |
| | 睡眠 | 0.09 | 0.11** | 0.18** | 0.05 | 0.04 | 0.08 | 0.12** |
| | 食事 | 0.15** | 0.14** | 0.26** | 0.07 | 0.16 | 0.16** | 0.12** |
| | 喫煙 | 0.06 | 0.18** | 0.18** | 0.08 | 0.08 | 0.09 | 0.20** |
| | 飲酒 | 0.06 | 0.11** | 0.10** | 0.08 | 0.07 | 0.11** | 0.18** |
| | 外出 | 0.12** | 0.03 | 0.13** | 0.20** | 0.11** | 0.06 | 0.18** |
| | 運動実施 | 0.21** | 0.14** | 0.25** | 0.19** | 0.17** | 0.17** | 0.12** |
| | ボランティア | 0.06 | 0.15** | 0.18** | 0.09 | 0.10 | 0.09 | 0.16** |
| | 親友 | 0.37** | 0.26** | 0.28** | 0.28** | 0.47** | 0.24** | 0.17** |
| | 重相関係数 | 0.60 | 0.59 | 0.62 | 0.69 | 0.57 | 0.44 | 0.51 |
| | 決定係数 | 0.36 | 0.34 | 0.38 | 0.47 | 0.33 | 0.19 | 0.26 |

重相関係数および決定係数以外の数値はすべて偏相関係数
** $P<0.01$

生活状況別にみると，通院状況は，男女ともいずれの生活満足度とも有意な関連が認められなかった。男性では，職業がすべての満足度と有意な関連を示し，女性では，家族構成，運動実施，および親友の数の3つの生活状況要因との間に有意な関連が認められた。

F6生活設計に関する満足度は，男女ともに有意に関連する生活状況が多く（10/13），F1家族およびF2日頃の暮らし方に関する満足度は女性において関連が認められる生活状況が多かった（11/13, 12/13）。

## Ⅳ 考　　察

### 1. 高齢者の生活満足度の特徴

本研究の結果から，一般に在宅高齢者の日常生活における満足度は高いと推測される。しかし，本研究では，在宅高齢者を対象としており，また，調査対象の多くが地域生涯学習サークルの参加者であり，高齢者の中でも日常生活の活動範囲が比較的広く，健康水準の高い集団であったことを踏まえておくべきであろう。今後，施設入所高齢者など，異なる環境にある高齢者との比較検討が必要と考えられる。

生活満足度に性差が認められた3項目の内，2項目（No. 5「家の中での日常生活活動に身体的な面で支障はなく～」，No. 6「外出や買い物の際に身体的な面で不都合はなく～」）はいずれも身体的健康に関する満足度であり，男性の方が家庭の内外を問わず身体的側面に関する満足度は高い。客観的な健康度が悪くても，主観的にはよく評価する男性特有の傾向[16]と考えられる。

身体的健康に関する満足度は，性差のみならず，年代差も認められた。Czaja[17]は，理想と現実の不一致が生活満足度を決定する重要な要因であるとしており，加齢に伴う理想と現実の不一致は身体的健康に対する満足度において大きく，このことが前者において顕著な年代差として現れたと考えられる。

No. 8「友人関係に～」は女性において年代差が認められ，80歳代の満足度が他の年代よりも低かった。これには様々な背景が想起されるが，生活に対する能動性に加えて機能的生活水準の低下[18]が主たる要因と考えられる。

### 2. 高齢者の生活満足度と日常生活状況要因の関連

すべての生活満足度は何らかの日常生活状況要因と関連が認められた。

運動の実施状況やボランティア活動が生活満足度に影響することはこれまでの多くの主観的QOLに関する研究で報告されている[2,19]。柴田[19]は，Larson[2]のレビューを引用し，健康度，社会的経済的地位と社会的活動の3要因が最も主観的QOLと関係が高いとしている。本研究の結果は，これらの知見に加え，運動の実施状況やボランティア活動の社会的活動は，特に日頃の過ごし方に関する満足度とも関連が高いことを示唆している。

健康度自己評価と満足度との間には，密接な関係があると報告されており[20]，本研究の結果はこれを支持するものである。運動を継続的・定期的に実施可能な身体資源を有する者は，外出や買い物も可能であり，一方，外出や買い物に満足度を求める者は，継続的・定期的な運動を実施し，一定の体力水準を有していると考えられる。Sidney et al.[21]は，高齢者を対象に運動の影響をトレーニング前後で比較し，満足度に変化はなかったものの，健康状態は改善したと報告している。継続的・定期的な運動の実施は，満足度の評価に必ずしも貢献するものではないが，高い満足度は良好な健康状態を保証するものと導出される。

対人関係に関する満足度は親友の数と関連が認められ，男性ではボランティア活動と関連が認められた。女性は身近な人との人間関係に対する満足度が高い一方，男性は社会的活動などの広い交友範囲をも満足度評価の対象としている状況が窺える。本間ら[22]は70歳以上の地域高齢者を対象とした報告において，女性よりも男性においてボランティア活動などの社会活動性が高いことを報告している。女性は友人関係や近所付き合いの構築が比較的容易になされる一方，男性はボランティア活動などに人間関係の構築を求めている実態が窺える。

食事の規則性は日頃の食生活に関する満足度と関連が高く，また，付近付き合いに関する満足度は，親友が多いほど高い。生活満足度の高さには規則的な食生活とともに広範な友人関係に伴う充実した生活状況の存在が窺える。

各生活状況別に生活満足度を比較した結果，職業，通院状況および飲酒は，生活満足度との関連が窺えなかった。喫煙および外出は，男女で異なる結果を示し，男性では喫煙が，女性では外出が満足度に影響することが示唆された。前田ら[14]は，高齢者の主観的幸福感に関係する要因を検討し，職業の有無，喫煙および飲酒は主観的幸福感と有意な関連がないことを報告している。主観的幸福感と生活満足度は同じ構成概念ではないものの，部分的に同様な側面を評価している[1]ことを踏まえると，本研究で選択した生活満足度調査項目の有効性を裏付ける結果と判断される。喫煙や飲酒は，自らが望んで行う行動形態で，比較的達成しやすい欲求や願望であるため，達成感や充実感が得られず，生活満足度が得にくく，一方，親友との交流は，個人的な欲求や願望だけでは必ずしも達成できないこともあり，生活満足度との関連は高いと考えられる。

### 3. 日常生活状況と生活満足度との複合的関連

日常生活状況が生活満足度に及ぼす影響を検討した結果，取り上げた13の生活状況要因の1/4～1/3に関連が認められた。関連の程度は，男女とも身体的健康に関する満足度において顕著で，日常生活のあり方の影響が大きい。日常生活は，ADL（Activity of Daily Living）を基本的な要素とすることから，身体的健康に関する満足度への貢献が最も高い。一方，男性では家族に対する満足度，女性では環境に関する満足度に対する生活状況の貢献は低く，男女においてこれらの満足度は生活状況の影響を強く受けない，あるいは別の要因の影響を受けることが考えられる。

親友の数はいずれの生活満足度に対しても貢献が高い傾向にあった。高齢者に対するソーシャルネットワークの重要性[23,24]は以前から指摘されており，親友の数をソーシャルサポートの指標として位置づけた本研究においても同様な結果であった。また，ソーシャルサポートは，精神的ストレスの軽減に効果があることも報告されており[23]，生活満足度の充実は，精神的ストレスの緩和と関係があるかもしれない。高齢者は，就労者が少なく，いわゆる社会的にリタイアしていることから，家族以外との交友は一般に少ない。そのような中で，親友の存在は，何らかの施設を介した交流も含め，社会との関係を積極的に維持していることを意味し，このことは同居家族以外の社会的関係が保健・介護的支援に影響を及ぼすとする報告[24]からも支持される。

喫煙および飲酒は，それぞれ「心理的安定」に関するモラールと，「楽天的・積極的気分」に関するモラールに影響を及ぼすと報告されている[14]。しかし，本研究の結果では全体的な満足度との関係は窺えなかった。男性において喫煙本数が少ない者ほど身体的な健康面で満足している実態が明らかにされた。身体的健康に関する満足度に対しては，喫煙によって心理的安定を求める者と，喫煙をしないことによって身体的充実感を求める者の2つのタイプが存在し，場合によっては，互いの評価傾向が相殺され，全体としては適切に満足度が評価されない可能性が示唆される。

生活満足度を規定する因果関係に，性差はなく[25]，幸福感においても同様な結果[2]が報告されている。しかし，谷口ら[11]は，高齢者のモラールに影響を及ぼす要因を検討し，身体的要因に性差がないものの，これを除く，小遣いの月額，活動レベルや現住地の居住歴等の諸要因に性差が認められたとしている。本研究の結果では，満足度の評価においても，身体的要因のみならず，その他の生活状況との関係にも性差が存在した。今後高齢者の生活満足度を検討する際は，男女に特徴的な生活状況を基本属性として考慮することが重要であろう。

生活満足度との関連が認められた家族構成，食事の規則性，および親友の数は，個人を取り巻く要因である。配偶者がいる場合に生活満足度の高い傾向が窺え，子供よりも配偶者の存在が重要な要因と考えられる。また，一人住まいの場合はその他のケースと比べ，生活満足度の水準はかなり低い。

食事の規則性に関して，どのような食事のパターンにおいても，本人を含め規則的に食事を摂れる環境下にあることが生活満足度に好影響を及ぼしている。よって，個人的要因よりも，ソーシャルサポートなどの環境的要因の方が生活満足度との関係が高いことと関連すると考えられる。

以上，高齢者の満足度と生活状況との関係について，多面的な満足感および多様な生活状況を包括的に検討した。満足度の内容によっては，生活状況要因との関係は必ずしも高くなく，また，選

択した生活状況要因はすべての満足度に影響するものではなかった。

## V　結　　語

本研究の目的は，在宅高齢者を対象に，日常生活における生活満足度と生活状況要因との関係を明らかにすることであった。1,320人の在宅高齢者を対象に，理論的妥当性を考慮して選出した生活満足度調査，および生活状況調査を実施した。主な結果は以下のとおりである。

1．身体的健康に関する満足度は性差および年代差が顕著である。

2．体力および健康度自己評価は，身体的健康に関する満足度と関係があり，運動実施状況やボランティア活動は，身体的健康に関する満足度に加えて，日頃の過ごし方に関する満足度に影響する。

3．食事の規則性や親友の多さは日頃の過ごし方に関する満足度に影響をもたらす。

4．対人関係に関する満足度は，親友の数との関係があり，特に男性においてはボランティア活動も関係する。

5．生活状況要因は，身体的健康に関する満足度に最も大きな影響を及ぼす。

6．生活状況要因の関与の程度は，男性では家族に関する満足度，女性では環境に関する満足度において低い。

7．親友の数等のソーシャルサポートに関する生活状況は，いかなる内容の生活満足度に対しても影響が大きい。

8．在宅高齢者の生活満足度は，その背景に多様な生活状況要因の複合的影響を受けて成立しており，生活満足度を高めるためには性および年代を考慮した生活状況の質的改善が望まれる。

（受付　2000. 4.24）
（採用　2001. 3.23）

## 文　　献

1）古谷野亘．QOLなどを測定するための測度(2)．老年精神医学雑誌 1996; 7: 431–441.
2）Larson RB. Thirty years of research on the subjective well-being of older americans. Journal of Gerontology 1978; 33: 109–125.
3）和田修一．社会的老化と老化への適応―人生満足度尺度を中心として―．社会老年学 1979; 11: 3–13.
4）張　美蘭，金　憲経，田中喜代次．高齢者の生活満足尺度の構築．教育医学 1998; 43: 360–370.
5）武藤正樹，今中雄一．QOLの概念とその評価方法について．老年精神医学雑誌 1993; 4: 969–975.
6）濱島ちさと．高齢者のクオリティライフ．日本衛生学雑誌 1994; 49: 533–542.
7）永田勝太郎．QOL全人的医療がめざすもの．東京：講談社，1994.
8）杉澤秀博，柴田　博．在宅脳血管疾患既往者における日常生活動作能力・抑うつ状態の変化に対する社会心理的予知因子．日本公衆衛生雑誌 1995; 42: 203–209.
9）山下一也，小林祥泰，山口修平，他．社会的活動性の異なる健常老人の主観的幸福感と抑うつ症状．日本老年医学会雑誌 1993; 30: 693–697.
10）古谷野亘．主観的幸福感の測定と要因分析―尺度の選択が要因分析におよぼす影響について―．社会老年学 1984; 20: 59–64.
11）谷口和江，前田大作，浅野　仁，他．高齢者のモラールにみられる性差とその要因分析―都市の在宅老人を対象にして．社会老年学 1984; 20: 46–58.
12）和田修一．「人生満足度尺度」の分析．社会老年学 1981; 14: 21–35.
13）佐藤眞一，井上勝也，長田由紀子，他．中高年者の「仕事」「家庭」「余暇・社会活動」の満足度―尺度の作成と検討―．老年社会科学 1988; 10: 120–137.
14）前田大作，野口祐二，玉野和志，他．高齢者の主観的幸福感の構造と要因．社会老年学 1989; 30: 3–15.
15）出村慎一，春日晃章，松沢甚三郎，他．女性高齢者の基礎体力と健康状態，日常生活活動，及び食生活の関係．体力科学 1998; 47: 231–244.
16）芳賀　博，七田恵子，永井晴美，他．健康度自己評価と社会・心理・身体的要因．社会老年学 1984; 20: 15–23.
17）Czaja SJ. Age differences in life satisfaction as a function of discrepancy between real and ideal self concepts. Exp Aging Res 1975; 1: 81–89.
18）吉本照子，川田智恵子．在宅高齢者の保健行動，日常生活活動，交通環境に対する認識の性・年齢差：公共交通が不便な地域における調査研究．日本老年医学会雑誌 1998; 35: 619–625.
19）柴田　博．老年学入門．東京：川島書店，1993.
20）石原　治，内藤佳津雄，長嶋紀一．健康度とモラール・満足度との関係．社会老年学 1989; 30: 75–79.
21）Sidney KH, Shephard RJ. Attitudes towards health and physical activity in the elderly. Effects of a physical training program. Med Sci Sports 1976; 8: 246–252.
22）本間善之，成瀬優知，鏡森定信．高齢者における

身体・社会活動と活動余命，生命予後の関連について―高齢者ニーズ調査より―．日本公衆衛生雑誌 1999; 46: 380–390.
23) 野口祐二．高齢者のソーシャルサポート：その概念と測定．社会老年学 1991; 34: 37–48.
24) 高梨 薫，杉澤秀博，奥山正司，他．高齢者に対する子供からの保健・介護的支援に関連する社会的要因．社会老年学 1994; 39: 50–56.
25) Liang J. Sex differences in life satisfaction among the elderly. Journal of Gerontology 1982; 37: 100–108.

# FACTORS RELATED TO SATISFACTION LEVEL IN DAILY LIFE FOR OLDER PEOPLE

Shinichi DEMURA*, Masahiro NODA[2*], Masaki MINAMI[3*],
Yoshinori NAGASAWA[4*], Nobuhiko TADA[5*], Jinzaburo MATSUZAWA[6*]

**Key words**: Older people, Life satisfaction, Life-style

The purpose of this study was to examine relations between satisfaction levels and life-style in daily life for older people.

A questionnaire, based on 7 factors of life satisfaction level and 13 factors of life-style chosen after considering theoretical validity, was administered to 1,320 healthy people aged 60 or more in the community (665 males and 655 females).

Remarkable gender and grade differences were confirmed in the "physical health" satisfaction level. Satisfaction level for "personal relations" related to the number of friends for both sexes and to volunteer activities for males. The influence of the life-style factor on satisfaction level was highest in physical health. The influence of the number of friends was high for each satisfaction level.

It was inferred that there are many aspects of life-style backgrounds contributing to the satisfaction level of older people in the community, and individual satisfaction with daily life is affected by different life-style factors.

* Faculty of Education, Kanazawa University
2* Jin-ai Women's Junior College
3* Kanazawa College of Art
4* Akita Prefectural College of Agriculture
5* Fukui Prefectural University
6* Fukui Medical University